

帝国主義と列強の展開 (その2)

世界史ゼミ 14

ドイツ

(鉄血宰相) の同盟...資本家と(エッカー)の結びつき→独占資本の形成  
(対外) (ビスマルク) の世界政策→「ドイツは海を以て利」(新航路政策)



ビスマルク体制の終焉

再保障条約破棄→露が(瓜分)と接近

(露仏同盟) (1891)

海軍の大拡張→反発した英が仏と接近

俾と伊の対立...「未回収の地」をめぐる争い

(国内) 労働運動

1875 ドイツ社会民主党...ラサールを受け継いだ(ワイマル)ら  
1878 (社会主義者鎮圧法) 制定  
1890 社会主義者鎮圧法廃止

(ドイツ社会民主党(SPD)...第2(マルクス-エンゲルス)の中心

→第一次世界大戦では戦争政策を支持

(ワイマル)の修正主義...議会議長の改革重視

ワイマル

→マルクス主義

ロシア

資本主義の導入... (農奴解放令) (1861) 以降

農民・労働者の生活水準は低位

ナポレオン戦争運動の失敗→(ニコライ・ブナコフ)などの社会不安

仏との連携... (露仏同盟) (1891) → (シベリア鉄道) 建設などの国家事業

政党の成立 近代化を求める政党に加え、資本主義に反発する社会主義政党が成立

① (ロシア社会主義労働党) (1898)

→分裂 (トリスツキ) ... (レーニン) 中心

→西側 露全境

② (社会革命党 (SR)) (1901) ... ナポレオン二キの系統

③ (立憲民主党) (カズット) (1905) ... 自由主義政

(第一次ロシア革命) (1905)

原因: (日露) 戦争の戦況不利→ツァーリズムへの不満

経過: (血の日曜日) 事件・首都(モスクワ)

司祭(カポト)に率いられた民衆へ宮殿警備隊が発砲



労働者、(ソボエフ) (評議会) を結成、各地でストライキや武装蜂起

海軍、戦艦ポチョムキン号の反乱

結果: ニコライ二世は(十月宣言)で事態の收拾を図る

→立法権を持つ(ドマニ) (国会) の開設、市民的自由承認

自由主義者(ソボエフ)を首相に登用 ※ (ドマニ) 条約の全権

反動: 首相を(ドマニ)に交替(1906)

・農村共同体(シール)を解体→自営農民の育成...失敗

=ロシアのシール=対外的不満高まる

・国会の立法権を制限

国民の注意をそらすために、バルカン・西アジアへの南下政策を強める

アメリカ合衆国

19世紀末...工業生産力は英を抜いて世界NO. 1

・(マクドナルド) が消滅(1890年代)→海外への積極的進出

・トラストの形成...石油王(ロックフェラー) タバコ王(デュポン)

鉄鋼王(カーネギー)

・(ルーズベルト) 会議(1889) → 露日-主権の対立

→ラテンアメリカ諸国に対し、強い指導力を行使する意図

第25代(マクドナルド) 大統領(共和) (1897~1901)

・(カハ) 海政策→(米西) 戦争(1898) ... (フィリピン) 獲得

・太平洋横断→(ハート・ランド・ツェン) 獲得(1898)

・中国に進出→國務長官(ヘンリー)の三原則...遅れを取り戻すため

第26代(ヘンリー) 大統領(共和) (1901~09)

・19世紀末より東欧・南欧からの移民が増加による都市の貧困問題が表面化

・(革新主義) ...トラストの規制と労働条件の改善を求める声

(反トラスト) 法(1890制定)の徹底運用

・カリフォルニア政策の推進(根拠外交)

・(露日) の保護国化

(ポーツマス条約) を押しつける

(ハート) 運河建設へ着手

第27代(マクドナルド) 大統領(共和) (1909~13)

・(フィラ) ... 中米や中国への投資推進

第28代(タフト) 大統領(民主) (1913~21)

・反トラスト法強化

→「新自由」...関税引き下げ・労働者保護

・(宣教師外交) を推進...中米やカリフォルニア海で覇権確立

→パナマ運河の管理権獲得(1914)・メキシコに軍事介入

労働運動

(アメリカ労働総同盟) (AFL) 結成(1886)

インターナショナル

インターナショナル...社会主義者の国際的連携を図る

第1回(1864~) (ロンドン)

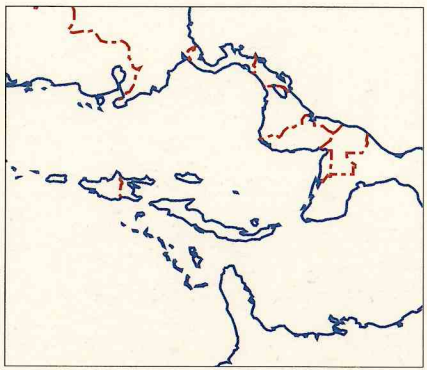
第2回(1889~) (パリ)

第一次大戦が近づくと、植民地統治を認めた

り、自国の利益を重視するなど、戦争を認め

る国家が現れ、結束が乱れる

インテリゲンチヤ



合衆国の保護国を色づけしよう



アメリカの歴史

